高槻中学校・高槻高等学校
校長　工藤　剛

2023 年度　高槻中学校・高槻高等学校　学校評価　2024 年度記入

1　めざす学校像

■めざす学校像
次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す
■教育方針
確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2　中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

①　ＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)、ＳＧＨＮ(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)としての教育活動およびコース制の充実

指定２期５年目のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)校としては「データサイエンスの素養を持ち先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、７年間取り組んできたＳＧＨ事業を引き継ぐＳＧＨＮ(スーパーグローバルハイスクールネットワーク）参加校としては、「大阪医科薬科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入１０年目となり、中３以降の学年が、ＧＳ(グローバルサイエンス)、ＧＡ(グローバルアドバンスト)、ＧＬ(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後、コースの特性に応じた教育プログラムのより一層の充実を図っていく。

②School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③高大連携の教育プログラムの充実

本校は、同一法人である大阪医科薬科大学との連携、ＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)の指定、ＳＧＨＮ(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)の参加というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、学習指導要領、それを踏まえた大学入試改革のキーワードにもなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として［知識･技能］、［思考力・判断力･表現力］、［学びに向かう力・メタ認知］が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価項目６が95%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、全学年で年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っている。共学７年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にする指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていきたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は改善しているが(項目 24 が 2019 年度 72%→2020 年度 81%→2021 年度 79%→2022 年度 79%→2023 年度 74%)、今年度も改善策を図り継続して取り組んでいく。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していく。

⑦社会貢献活動としてのボランティアの推進

2016 年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「Ｔ－ＢＥＳＴ」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑧指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なＯＪＴの活性化を図っていきたい。大学入試改革、学習指導要領の改訂をふまえ、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑨ＩＣＴ利活用教育の推進

これからの高度情報化社会を生き抜くために必要なＩＣＴスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたＩＣＴ教育を充実させていく。

⑩行事の精選

これまでに取り組んできた教育活動を振り返り、これからにふさわしい教育活動の構築のため行事の精選を行い再編していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［2023 年実施分］

〔総論〕

（1）［教員の評価より］〔回答数　2023 年度 73・2022 年度 72・2021 年度 72〕

＊改善項目　　30 項目中 14 項目　（昨年度 30 項目中 10 項目）

＊評価 90%以上の項目　　16 項目　（昨年度 15 項目）

80%以上の項目　　27 項目　（昨年度 29 項目）

自己評価は、昨年に引き続き 80%以上が 30 項目中 27 項目と高い評価になった。８０%以下となった「項目 12 生徒が自らの適正に合ったキャリアデザイン（学び方・働き方・生き方の設計）ができるよう、各学年に応じて系統的な進路指導がなされている。79%」「項目 18 社会のルールや社会性が身につくような教育活動や指導を系統的に行っている。78%」「24 清掃指導に充分取り組んでいる。74%」について課題として取り組みが必要である。

（2）［生徒の評価より］

中学生　**〔有効回答数 693〕**

＊90%以上の評価を受けた項目　11 項目（昨年度 11 項目）

80%以上の評価を受けた項目　29 項目（昨年度 27 項目）

＊中学全体の経年比較プラス評価　19 項目（昨年度 10 項目）

＊70%以下の項目　　0 項目（昨年度 1 項目）

学年比較 5%以上のマイナス評価項目（学年・評価/平均）として、特に 70%を下回る項目として「生活指導の方針に共感できますか。（中 2 項目 12：69%/74%）」があり、成長段階に応じて、適切な指導を心掛けたい。

高校生　**〔有効回答数 643〕**

＊90%以上の評価を受けた項目　7 項目（昨年度 9 項目）

80%以上の評価を受けた項目　27 項目（昨年度 26 項目）

高校全体の経年比較プラス評価は 15 項目（昨年度 24 項目）と昨年度に引き続き改善の傾向がみられる。10%以上の改善項目として「項目 5 学校の生活指導は適切ですか。77%←65%）」「項目 11 生活指導の方針に共感できますか。（66%←55%）」となったが、学年比較でみると、「項目 11 生活指導の方針に共感できますか。（高 1：58%/66%）」と全体的に低い値が出ている。理解を得ることができる指導が求められる。

（3）〔保護者の評価より〕

中学保護者　**〔有効回答数 519〕**

＊90%以上の評価を受けた項目 11 項目

「項目 1 学校は、教育方針をわかりやすく伝えていますか。」「項目 7 先生は、子供の能力や努力を適切・公平に評価していますか。」「項目 9 学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きとしていると思いますか。」「項目 17 子供は、文化祭、体育祭、野外学習などの学校行事に積極的に参加していますか。」「項目 19 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいますか。」「項目 20 学校は、子供に命を大切にする心を育てようとしていますか。」「項目 21 学校は、社会のルールを守る態度を育てようとしていますか。」「項目 24 学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか。」「項目 25 学校が保護者に出す文書・事務連絡などの量および内容は適切ですか。」「項目 26 学校では、子供に関する個人情報が守られていますか。」「項目 28 学校では保護者会活動が活発ですか。」で、80%以上の評価を受けた項目は、28 項目中 24 項目（昨年度 23 項目）であった。本校教育に対して、高い評価と理解をいただいている。より信頼に応えられるよう取り組んでいく。

高校保護者　**〔有効回答数 481〕**

＊90%以上の評価を受けた項目 9 項目

「項目 1 学校は、教育方針をわかりやすく伝えていますか。」「項目 9 学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きとしていると思いますか。」「項目 17 子供は、文化祭、体育祭、野外学習などの学校行事に積極的に参加していますか。」「項目 19 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいますか。」「項目 20 学校は、子供に命を大切にする心を育てようとしていますか。」「項目 21 学校は、社会のルールを守る態度を育てようとしていますか。」「項目 24 学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか。」「項目 25 学校が保護者に出す文書・事務連絡などの量および内容は適切ですか。」「項目 26 学校では、子供に関するプライバシーが守られていますか。」であった。80%以上の評価を受けた項目は、28 項目中 23 項目（昨年度 20 項目）であった。高校全体での経年比較プラス評価 23 項目（昨年度 9 項目）と改善がみられた。学年比較では、「項目４学習の内容や進度などを、懇談や学年通信やシラバスなどによってよく知ることができますか。（高 2：68%/75%）、「項目５学校は、到達度に応じた学習指導を行っていますか。（高 2：68%/73%）」であった学習面の情報発信について検討し、理解と協力を得られるよう取り組んでいく。

【総評】

アンケートの結果をみると、生徒、保護者から一定の高い評価を得られている。経年比較、学年比較を参考に、更なる教育活動の充実に取り組む。学校としての理念や指導方針について、生徒、保護者に理解を得られるよう、教育活動の改善とご家庭の連携に努め、教育活殿に対する信頼を深めていただけるよう取り組む。

※各項目の%は肯定的評価（1：よくあてはまる　2：少しあてはまる）の数値を示す

学校協議会からの意見

2023 年度に実施された学校評価アンケート結果について、以下の通り意見を申し述べます。

1．はじめに

教職員、生徒、保護者のいずれにおいても、ほぼすべてのアンケート項目についてプラス評価の回答が 70%以上を占めていることは高く評価できるものと考えます。

一方、学年比較又は経年比較で 10%以上超えるマイナスが生じているものは、特に注視が必要ですが、今回の調査結果では該当項目もありませんでした。

以上を踏まえつつ、以下、各論に触れます。

2．教職員へのアンケート結果より

2022 年度から 2023 年度にかけてプラス評価の回答率が同一又は増えたものは 15 項目で、プラス評価の回答率が減ったものは 15 項目です。また、10 ポイント以上の減となった項目は無く、概ね現状維持と評価できるものといえます。

2020 年から 2 年連続で減少となっている項目は、項目 7、10、12、18、25、27、29 と 7 項目あります。これらのうち 2 年前より 10%以上のマイナスとなった項目 12、27 及び最もプラス評価が低く（74%）かつ、あまりあてはまらないとのマイナス回答が最も高い（10%）項目 24 は注視が必要であるといえるでしょう。

3．生徒へのアンケート結果より

中学生、高校生ともに、項目 2，3 の好意的回答が 93%以上であり、学校生活を楽しんでいると推察され、評価できるものと考えられます。

中学 1 年は中学平均との差が 5%以上低い項目が 4 つと最も多いことから、経年による改善が認められるかには注視が必要であるといえるでしょう。

高校 1 年生は高校平均との差が 5%以上低い項目が 6 つと最も多いです。これらうち項目 11 の「生活指導の方針に共感できるか」はあまりあてはまらないとのマイナス回答が最も高い（19%）、また項目 5 の「学校の生活指導は適切か」はあまりあてはまらないとのマイナス回答が（13%）と他項目と比較して高値を示している。生活指導については数値だけでは単純に評価できない面はあるとしても、マイナス回答が高い項目である以上、分析と注視は必要であるといえるでしょう。

4．保護者へのアンケート結果より

中学校、高等学校の保護者全体については、全ての項目でプラス評価 70%以上であること、あまりあてはまらないとのマイナス回答が 10%以下であることの 2 点から大きな問題は無いと考えます。

敢えて課題を挙げるとすると高 2 の保護者の回答で項目 4、5 においてプラス評価が 70%を若干割り込んでいることです。大学受験が現実味を帯びてきている学年であることからこのスコアになっている可能性があるのではないかと推察されます。例年も同様な傾向があるかどうかからこの推察の妥当性は判断できると考えますが、学校から適切な発信内容をより頻度を上げる等の配慮があれば保護者の不安も緩和する可能性があると思われる。

5．まとめ

注視すべき点はあるとしても、今回のアンケート結果をみれば、これまでの学校の改善努力が高いレベルで実っているといえます。今後の課題はその維持・継続にあろうと思われことから今後も不断の努力をお願いします。

保護者と学校の良好な関わりが生徒の健やか成長に重要であることはいうまでもなく、今後も、学校と保護者が、生徒の指導教育について円滑かつスムーズに連携し対応し良好な協力関係を維持することを期待します。

以上

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①ＳＳＨ、ＳＧＨＮとしての教育活動およびコース制の充実	（１）ＳＳＨの教育活動の充実 （２）ＳＧＨＮとして教育活動の充実 （３）GL コースの教育活動の充実 （４）中学の教育内容の充実と進路意識の向上 （５）コース選択に関するガイダンスの実施	（１）課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 （２）課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンライン講座 （３）探究活動の充実、オープンキャンパスプロジェクトの企画・実施 （４）ア．基礎基本の修得と定着の徹底 イ．キャリアガイダンス進路講演会「ようこそ先輩」（中１・中２）選択式進路講演会（中３） （５）ア．コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ．中学の保護者対象学年集会において説明	（１・２）各教育プログラムの実施後の生徒アンケート （３）課題研究発表会、オープンキャンパスプロジェクトの実施 （４）ア．中学生の項目４の肯定的評価が 90% (2022年度 94%) イ．中学生の項目 20 の肯定的評価が 85% (2022年度 86%) （5）ア．中１･中２で各１回 イ．中学保護者の項目１の肯定的評価が 90% (2022年度９４%)	（１）　研究の成果発表、コンテスト等に積極的に参加し、科学の甲子園大阪大会では、中高ともに大阪代表に選出された。ＳＳセミナーは 18 回実施された。ＳＳＨ研究開発実施報告書の項目、３「学問の先端的な深い内容や最先端の研究のことを知りたい」９２%、１７「自然現象を科学的に捉えられる」88，5%といずれも上昇し肯定的評価を得た。（◎） （２）　課題研究において、グローバルヘルスと関連づけて課題を設定し、先行研究を調べ課題の背景や問題点を意識しながら、社会科学的または統計的に資料の収集・分析ができた。（○） （３）　２月 24 日（土）に全校をあげて課題研究発表会を開催した。また高 1GL コースの生徒は１年度をかけて、オープンキャンパスプロジェクトに取り組み盛況であった。（◎） （４）ア．中学生の項目４「授業の進度や内容は適切だと思いますか」の肯定的評価は 89%であった。（△） イ．中学生の項目２０「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を計るようつとめていますか」が中学生の平均が 81%であった。各進路講演会は全て実施できた（△） （5）ア、中１、中２で各一回計画通り実施した。（○） イ、項目１「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」の肯定的評価は９３%であった。（○）
②School Mission の実現を図る教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア．次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施 イ．ターム留学(12 月末～2月上旬まで留学) ウ．特色教育としての英語教育の充実（ケンブリッジ英語)、使える英語を身につけるための英会話の授業（オンライン英会話含む） エ．英語４技能を測定するケンブリッジ英検の受検（中２・高 1） オ．言語活動の充実（ケンブリッジ英語の高校への導入） カ．グローバルセミナー実施 キ．海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティー高校: パラオ)との提携と交流行事 ク．海外フィールドワーク(ＧＡコース：台湾・パラオ) ケ．ＤＤＰ２年目の実施と新規募集	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目 15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が９０% (2022 年度 92%)	ア、について、今年度は英国研修、米国研修ともに定員の４０名が研修に参加することができた。（◎） イ．ターム留学は、１２月２３日から２月２５日の期間にアメリカ、カナダに 20 名が参加し留学できた。（○） ウ．今年度４年目を迎え、高校１年までがケンブリッジ英語の授業となった。（○） エ、予定通り実施できた。（○） オ、今年度より高校にも導入された。（○） カ、全３回　参加人数　中３・高１・高２ＧＡ生徒 キ、ク、台湾には高１ＧＡコースの生徒３８名が参加、パラオには高２ＧＡコースの生徒４６名が参加し、現地校との交流や各教育機関にご協力をいただき充実した研修を実施することができた。（○） ケ、実施２年目を迎え、５名の生徒が修了証を授与された。現在高１　名取り組んでいる（○） 自己評価における項目１５「グローバルイシューを扱った探究的な教育活動が行われている」が 89%であった。（△）

③高大連携の教育プログラムの充実	高大連携の教育プログラムの開発	ア．大阪医科薬科大学との連携 ａ）医学部 ＳＳＨ事業への支援、ＳＧＨＮ事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室、高大接続課題実習 ｂ）薬学部 サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 ｃ）看護学部 思春期教室 イ．京都大学…ＳＳＨ、ＳＧＨの活動における連携 ウ．大阪大学…ＳＳＨの活動における連携 エ．大阪工業大学…ＳＳＨの活動における連携 オ．東京大学…ＳＳＨの活動における連携 カ．ＳＳＨ事業での大学研究室訪問 キ．ＧＡコースにおける海外大学との交流プログラム a)スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b)台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ．ＧＳコースにおける海外大学との交流プログラム ａ）台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修	・各連携事業の実施 ・高１、高２生の項目 22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていると思う」の肯定的評価が90%。 (2022 度高校生９２%)	ア、ａ）医学部 ・基礎医学講座は、全８回実施され、高１・高２の生徒９２名が終了証を授与された。(○) ・冬期医学部実習は、高１の２０名が参加した。(○) ・最先端医学教室は、１月に中２全員が受講した。(○) ・高大接続課題実習は、高１・高 2ＧＳコースの希望者２２名が参加した。(○) ｂ）薬学部 ・サマーサイエンスプログラムには、高１ＧＳコース２３名が参加した。(○) ・基礎薬学講座は、全５回、中２から高２の生徒だ３５名が終了証を授与された。(○) ｃ）看護学部 ・思春期教室は、産婦人科学教室から講師をお迎えし、中２が受講した。(○) イ～カの他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) キ．ａ）スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォード e-Takatsuki は41 名が受講し、８回計画通り実施できた。(○) ｂ）実施を取りやめた。(×) ｃ）３泊４日の行程で計画通り実施することができた。(○) セ、ａ）３泊４日の行程で計画通り実施することができた。(○) ・項目２２「学校の教育活動を通して、多様な経験・体験ができていると思いますか」の肯定的評価が高１は、86%、高２は93%であった。(○)
④「探究型」学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成	（１）高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り （２）資質・能力の三つの柱（「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性」の育成	ア．ＧＳコースにおける理数課題研究 イ．ＧＡコースにおけるグローバル課題研究 ウ．ＧＬコースにおけるクリティカルシンキング エ．中１総合学習で行う学びのリテラシー オ．中２総合学習で行う課題解決型学習 カ．各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 キ．キャリアパスポートの作成指導 ク．学修インタビュー（中学）	・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目６「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたり、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が90% (2022 年度 92%)	・全ての項目について計画通り実施することができた。(○) ・自己評価６「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたり、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が９５%であった。(◎)
⑤高い学力が確かに身につく指導と成果の検証	到達目標 (A)難関国立１０大学合格者 150 名 (B)国公立医学部＋大阪医大合格者 60 名 (C)中学卒業時の英語力５０%が英検２級	（１）進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア．各学年が取り組む学力向上策 （２）中学段階における学習指導の徹底 ア．セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ．家庭学習時間２時間以上を徹底する。 （３）進路指導部主導による学力向上 ア．模試結果のフィードバックをもとにした復習。模試における目標の明確化。 イ．日々の学習での基礎基本の徹底 ウ．好ましい学習習慣を身につけるための指導 （４）進路意識を向上させるキャリア教育の充実 （５）高３三学期の受験指導の強化	(1)各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2)中学生の評価において項目１８「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が85% 項目２０「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が85% (2020 度項目１８が91%、項目20 が86%) 中学卒業時の英検２級合格率 50%以上 (2022 年度43.3%) (3)高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が 90%(2022 年度９３%) (4)中1、中2、高１で講演会を年１回実施 (5)二次対策講座の組織的な開設	(1)各学年で年間計画を立て学期ごとに職員会議で報告を行った。生徒一人ひとりに目を向けた成績検討会・出願先検討会を実施し、適切な時期に適切な進路指導を行った。(○) (2)中学生の評価において項目１８「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が87%であった。(○) 項目２０「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が８１%であった。(○) 中学卒業時の英検２級合格率 45.2%（１１９名）(△) (3)高校生の評価において項目 20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が 91%であった。(○) ((4)中2の「ようこそ先輩」と高１の「進路シンポジウムは実施した。中1の「ようこそ先輩」は実施することができなかった。(△) (5)二次対策講座の組織的な開設に加え、登校日を設けるなど意欲喚起に努めた。高３で予定通り実施できた。(○)

⑥徳育教育の充実	（１）生活の基本を大切にする指導の徹底 （２）平和学習を目的とした修学旅行の実施 （３）道徳教育の充実 （４）人権教育の推進	（１）生活の基本を大切にする指導の徹底 ア．服装 イ．挨拶 ウ．清掃活動←毎日清掃指導＋週２回の全校清掃の実施 （２）平和学習を目的とした修学旅行（中３） （３）中学３年間を通した系統だった道徳教育 （４）年間計画に基づく人権教育 ア．毎学期１回人権ＬＨＲの実施 [各学年のテーマ] 中１：他者を理解し、尊重する心を持つ 中２：心身に障がいのある人々の人権を考える 中３：「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える 高１：民族・人種などに関わる諸問題について多角的な理解を深める（ＳＤＧｓを念頭に） 高２：在日外国人に関わる諸問題を中心とした人権問題 高３：進路と人生に関する人権問題	（１）生徒の評価において項目中学１１ 高校 10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」、中学 13 高校 12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに 85% （2022 年度中学 11 が89%、高校 10 が 86%　中学 13 が 89%、高校 12 が83%） 自己評価において項目 24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が 80% （2022 年度 79%） （２）系統だった平和学習の実施 （３）中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が 90% （2022 年度 92%） （４）高校生の評価において項目26 の肯定的評価が 90% （2022 年度 89%）	１）中学項目１１，高校項目１０「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」において、中学 92%、高校89%であった。また中学１３、高校１２「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」が中学 90%、高校 88%であった。中高ともに向上でした（◎） 自己評価項目２４「清掃活動が行き届いている」が肯定的評価７４%であった。（△） （２）予定通り実施できた。（○） （３）中学項目２６「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が、９１%であった。（○） （４）高校項目２６「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が、９２%であった。（○）
⑦社会貢献活動としのボランティアの推進	ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実	（１）ボランティア活動支援センターの体制確立 （２）ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 ア．日本青年赤十字との連携〔オンライン〕 イ．インターアクトとの連携（地域連携）〔オンライン〕 ウ．校内・校外企画（クリーンハイク等） （３）生徒募集イベントにおける「Ｔ－ＢＥＳＴ」メンバーのボランティア活動	（１）年度末報告 （２）50 名による活動 ア．年８回 イ．年５回 ウ．年５回 （３）計７回のイベントに延べ 130 名が参加	（１）ボランティ委員会への指導・助言、外部機関との調整・とりつぎを行う体制が十分に確立されている。（◎） （２）ボランティア委員会に所属する中２以上の生徒 51 人が随時参加し。ボランティア活動の充実を図っている。（○） （３）学校説明会、学校・入試説明、秋の GL オープンキャンパスプロジェクト、計９回の活動に登録者約 116 名で延べ 363 名が分担し、積極的に参加し役割を果たした。（○）
⑧指導および資質の向上を図る教員研修の実施	教員の指導力および資質の向上	（１）研究授業の実施 （２）難関大学入試問題研究会の実施 （３）学びあい週間の実施 （４）教員向け人権研研修会 （５）いじめ防止教員研修会 （６）５年経験者研修 （７）新人研修	・自己評価において項目 27「他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が 90% （2022 年度89%） ・（１）から（７）の実施	（１・２）自己評価の項目２７「他の教員の授業を見学したり、研修を受けたりする機会がよく設けられている」の肯定的評価が８４%であった。（△） （３）から（７）の研修は計画通り実施した。（○）
⑨ＩＣＴ利活用教育の推進	ＢＹＯＤによる ＩＣＴ教育の充実	ＩＣＴ利活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る ア．メディアリテラシーを含めた教育体制の構築 イ．オンラインの教育への有効活用 ウ．学習用デバイスの使用に関するルールの改正 エ．校内環境の整備、システムの構築 オ。ＩＣＴ利活用教育推進委員会による教員研修、生徒支援、広報活動	・推進委員、新任教員を対象とした教員研修の実施 ・オンライン会議システムを利用したセミナー等の実施 ・中３～高２（希望者）にオンライン学習の整備 ・教員、生徒のＩＣＴ利活用を支援する体制の確立	・ＩＣＴ利活用の教員を各学年に配置し、機動的に利活用を促進する体制を整え、各教員のスキルやニーズに応じて、実践力の向上に努めた。（○） ・ＳＳセミナーの一部をオンラインで実施した。（○） ・対面での授業に努めた（○）
⑩行事の精選	年間行事の見直しを行い、行事の精選による年間行事の充実を図る	（１）研究授業・教科指導研究会議（年１回実施） （２）学校教育全体を見据えた行事の精選	（１）自己評価項目４、５、６の教科指導に関する項目の肯定的評価が 95% （２）研究開発本部会議・学校運営コア会議の実施	（１）校内での研究授業・教科指導研究会議を予定通り実施した。自己評価は、項目４：96%、項目５：93%、項目６：95%であった。（○） （２）両会議とも実施し、行事の精選等行った。（○）